

2018年11月13日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
千葉大学ALPSプログラム 第4回シンポジウム
「米国高等教育におけるアカデミック・アドバイジング」
—アカデミック・アドバイザー養成と専門職団体（NACADA）の役割—
参加者アンケート

当日参加者数： 52名 アンケート提出数： 28件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・アカデミックアドバイジング（日本における）には philosophy が無いのかなっと思いました。制度があっても、人間がそこに価値付けをおこなわなければならないと思いました。
- ・現在の業務において、できていること、できていないことを確認することができました。学生のためを思っていることが、学生の成長を妨げていることにもつながることに気付かされました。
- ・アカデミック・アドバイジングにおいて重要なこと、ポリシー、方向性など。
- ・アカデミック・アドバイジングの範囲や理念、考え方がわかりました。
- ・学生中心の教育ということの意味をあらためて考えさせられた。アカデミック・アドバイジングの積極的な意味づけを理解することができた。
- ・アカデミック・アドバイジングについて理解が深まりました。大学で勉強することについての本質を伝える大切さを知りました。
- ・アカデミック・アドバイザーの仕事はどんな授業を取ればいいのかというアドバイスにとどまらないとの認識を新たにしました。
- ・Motivational で良かった。
- ・「学生のために」という思いが大事であること。そのためにやれるべきことはたくさんあることを改めて認識できた。
- ・情熱を持って学生と向き合うことの大切さ。原点にかえるようなお話しでした。
- ・チャーリー・ナット氏はとても庶民的で親しみやすい方だと思いました。ご自分が家族の中で初めて大学進学をしたという経験から学生が不安に感じていること、望んでいることに寄りそって教育支援をしている様子がよくわかりました。
- ・アカデミック アドバイジングとは・・・ / 定義付けの重要性 etc、
- ・“学生の成功とは何か定義を検討する” 各アドバイザーや教員が自分の価値観で実践しがちであるので、まず、これが大事だとあらためて認識しました。
- ・ACADEMIC ADVITISING という新しい概念がわかった。
- ・学生に対する意識。
- ・大学を家のように感じられているか。居場所があるか。という発問。自身が大学で居場所を見つけられるまで時間がかかったが、たしかにそれからの方が大学が楽しかったような気がする。
- ・日々の業務の中で、学生個々の入学から卒業までの過程で、私達のアカデミックアドバイスがどれだけ重要で、またどうすれば学生のゴールへ向けて効果的にアドバイスということが出来るのか学ぶことができました。
- ・アカデミック アドバイザーに求められる役割、意識がよく分かった。
- ・アカデミックアドバイジングと（高度）専門職との関係が今まではあまりわからなかったが、今日のシンポジウムは参考になった。

(次ページに続く)

- ・アドバイザーとして意識しておきたいものを再度認識できました。
 - ・10年前と現代のアカデミック・アドバイジングは異なっていること。学内協働の方法。
 - ・academic advising について。
 - ・大学のアドバイジングが10年前とは大きく変化していること。教育を受ける意味を教えているか。日本ではこのような考えをしている者はほとんど居ないのではないかな？
 - ・各学年で抱える問題が異なり、適切なアドバイスや対応が必要と再認識しました。成功例の share を大学内ですることの大切さ。“care”の大切さ。
 - ・student success の definitions をはっきりさせる必要性など。基本的だが普段忘れがちなことを気付かせてくれて目のさめる思いでした。
- (以上原文まま)

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・千葉大で養成されている教育・学修支援の専門職とアカデミック・アドバイザーの関係？同じもの？。
 - ・データの話が沢山出たが、どのようにデータを集めるのかについて、より具体的に知りたいと感じた。
 - ・学生にとっての成功とは具体的にどういうことなのでしょう。いい仕事に就くだけではないと思いますが、かといってそれ以外に大学が提供できる明確な事柄がイメージできません。コンピテンシーみたいなものを身につけ活用できるようになることでしょうか。
 - ・すべての学生に対して公平にできる取組がある一方、個人の能力（特にコミュニケーション力）に大きく左右される部分があると思うので、そのあたりをもう少し深く聞きたかった。
 - ・アメリカの今のアカデミック・アドバイザーはどのような方がどのようになっておられるのか。
 - ・「学生の成功」を1つの定義におさめて、共有する。なかなかみんなをまきこんで共有するのは難しそうだなと思ってしまいます。
 - ・アカデミックアドバイジングにおけるテクノロジーの活用についてはもっと深堀りの余地があるように感じた。
 - ・日本のアカデミック・アドバイジングをどうしていくか、まだまだ先が見えない状況ですが、今回のお話を今後の参考としたいと思います。
 - ・専門職がいるとよい。必要だというのは同意。しかしながら特に小さい大学で教員の数も予算的に確保が難しいのに、それ専門の職員確保は難しいのでは？（又、その場合各教員がその役割を担っているし）
 - ・学生にとっての成功とは何か？学生の興味を伸ばすこと？卒業させること？学生の needs に合わせて満足度を上げることでしょか？と考え始めてしまいました。Faculty は教育と専攻・学んだことがなく、専門知識を教授する教員がアドバイザーになっていることの難しさ。
- (以上原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・支援者の身分にもよりますが、自分で切り開いていく力が必要かと思えます。
 - ・必要と思う資質・能力、大学の理念を理解していること、学生の成功とは何か、アドバイジングとは何か、わかっていることなど。
 - ・必要と思う能力は、教育・学修支援に対する知識の習得と、全学的に他部署が関連する支援について、どのようなことを行っているのか把握することがはじめの一步なのではと感じました。
 - ・海外の先進的な取組を伺う機会はなかなかないので、とても有意義な時間を頂きました。ありがとうございました。
- (次ページに続く)

- ・教育・学修支援の在り方について議題やトピックにあがることが本学ではない。重要性があまり認知されていないように感じる。
 - ・(ジョージア州立大 Admithub、イーロン大の stelic など) Cf、the chvonicle of HE 2018/4/8
 - ・本日のご講演でも少し話がありましたが、学生に自問させ、自分の話をさせることで、自身の考えを再認識する事が重要と考え、なるべく話をさせるよう意識しています。
 - ・学生の状況を察知できる能力。
 - ・peer advising については大分新しい側面を迎え、あらゆる事例が蓄積されてきたように思います。
- (以上原文まま)

4. 本日のシンポジウムの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・とても、inspiring な内容でした。
 - ・非常に貴重な機会を設定してくださりありがとうございました。
 - ・通訳をつけて頂いたので、抽象的なこともより明確に理解することができた。
 - ・米国でのアカデミック・アドバイザーの状況を知ることができた。日本でも必要なものであると再度感じた。ただ、状況的に色々難しいことがたくさんあるのでどこかしいなあ・・・と思いました。
 - ・いち図書館職員ですが、学内の他部署と教育・学修支援の定義を行い、パートナーシップを結んでいくことができるよう自ら行動していきたいと思います。
 - ・日々、教職協働の難しさに直面しているので、今回のプログラムに大変勇気づけられた。ひとつひとつ定義づけ、データをとり根拠づけることを心がけて、学生中心の教育を少しでも実現させていきたい。
 - ・理想と現実のあいだで、次第に現実寄りになってしまうことが多々あるが、“学生のために”という視点を忘れずにいたいと思う。
 - ・難しい内容であるのに同時通訳がすばらしく、わかりやすかったです。
 - ・大変有意義な内容でした。
 - ・米国の事情が具体的にわかる。
 - ・通訳の方がいらして下さって大変助かりました。
 - ・面白い企画ありがとうございました。
 - ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・自身の活動を通して、その報告をする事で少しでもこの分野の役に立てるよう努めてまいります。
 - ・大変興味深いシンポジウムでした。ありがとうございました。
 - ・英語がクリアで声が大きくて分かりやすかった。
 - ・学修支援=卒業(学位取得)と就職する、と考えている者がほとんどの中で今日のシンポジウムをどのように広めていくのが課題ですね。
 - ・アカデミックアドバイザーの必要性を改めて考える貴重な時間を持ってました。
 - ・とても貴重な機会でした。ありがとうございました！
- (以上原文まま)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 14名 b. 千葉大学内の方 11名 (回答なし 3名)

(2) a. 学生 0名 b. 教員 9名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 14名 d. 図書館職員 2名
e. 出版関係 0名 f. その他 3名 (回答なし)

6. シンポジウムを何で知りましたか? (複数回答あり)

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 1名 b. Web(図書館) 0名 c. Web(千葉大学) 1名

d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 2名 f. センターからのメール 13名 g. Facebook・Twitter 1名

h. asagao メーリングリスト 9名 i. その他 2名 (チラシなど)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。(複数回答あり)

(1) 参加の経緯: a 所属機関からの推薦・業務命令 2名 b 自身の希望 21名 (回答なし 6名)

(2) 旅費の負担: a 所属機関負担 11名 b 自己負担 2名 c その他 15名 (回答なし 13名など)

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前: () ご所属: ()

電子メールアドレス: 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 9名が新規に継続的な情報提供を希望